

平成29年度研究推進支援プロジェクト研究成果報告書

1. 研究の概要

プロジェクト名	韓国の初等教育における学校図書館の活用に関する研究		
プロジェクト期間	平成29年度		
申請代表者 (所属講座等)	生活総合教育講座 天野真二	共同研究者 (所属講座等)	学校教育講座 河内祥子
取組方法・取組実績の概要	<p>本研究期間においては、日本と韓国の初等教育における学校図書館の活用に関する研究を行うことを目的とした。まずはこれらに関する先行研究を整理するため、文献研究を行うと同時に、韓国の水原(スウォン)市内における小学校の学校図書館の調査を行い、日本の公立学校の学校図書館の在り方について検討した。宗像市の公立学校の学校図書館の活用状況の調査は、該当する学校での資産確定調査期間や学校行事などが重なったため、現地調査はかなわなかったが、宗像市教育委員会図書課の協力を得て来年度に実施する予定である。</p> <p>また、韓国の学校図書館については、弘益大学校元助教授の岩崎の人的ネットワークを活用し、水原市の孝正初等学校・金美海教諭と専ら学校図書館の運営に携わる学校司書へのインタビュー調査及び、施設見学を行った。また、韓国の文字活字文化振興に関する文化行事のひとつであるハングルの日祝賀イベントを視察すると共に、国立ハングル博物館の視察及び係員・従業員・指導員へのインタビュー調査も行い、韓国における文字文化政策に関する取り組みを調査した。</p>		
研究成果の概要	<p>韓国の学校図書館の取り組みに関して国内の3校の小学校を訪問し、調査にあたる予定であったが予算や調査時期の都合上、訪問回数が1回のみとなり、水原市の孝正初等学校のみ調査となった。孝正初等学校に勤める学校司書への聞き取りからは、日本同様に学校図書館における学校司書の職位に関する問題意識や課題意識、雇用問題等が確認できた。</p> <p>学校図書館司書としての学校における役割は、あくまでも図書館の整備や児童への学習・選書支援等に留まっており、選書に関しては学校所属の教諭が会議を通して決定し、学年ごとの推薦図書を毎学期選書していることが明らかになった。しかしながら、図書館内で開催される行事に関しては学校図書館司書の采配に任せられていることが分かった。だが学校図書館司書はフルタイムの配置ではないため同僚との意思疎通は難しく、1校に一人配置ではない問題や、読書教育に対する教諭の意識の差が浮き彫りとなった。</p> <p>一方、10月9日はハングルの日であり、韓国における文字文化政策を調査することができた。1970年に大統領令により世宗大王の功績をたたえと共に、ハングルの普及・研究を奨励する日と定められたが、途中、紆余曲折を経て現在は文字文化政策の大きな要として再び公休日と定められた。ソウル漢北の中心鍾路の世宗大王の銅像の地下はハングルに関する博物館となっているだけでなく、ハングルの日にはイベントの中心地ともなり、詩やデジタルアートなど文化継承を含めた行事を展開し、観光に訪れた外国人へのハングル普及の役割も果たしていた。また、国立ハングル博物館は常設のハングルの博物館だけでなく保育園を含む幼年期のハングル学習施設となっており、ここでもICT教育が実施されていることが明らかとなった。</p> <p>同時に継承語教育の調査も行い、学校図書館が家庭文庫では補完することのできない外国にルーツをもつ児童への支援の可能性への示唆となった。</p>		
外部資金獲得申請及び研究成果の公表方法等について〔 <input type="checkbox"/> (該当事項) にチェック方願います。〕			
外部資金獲得申請(提出済)	<input type="checkbox"/> 科学研究費補助金 <input type="checkbox"/> 受託研究費 <input checked="" type="checkbox"/> その他 (博報財団 研究助成)	研究成果の公表方法(予定)	<input checked="" type="checkbox"/> 学会(国内): 日本図書館情報学会 <input type="checkbox"/> 新聞・図書・雑誌論文等: <input checked="" type="checkbox"/> その他: 福岡教育大学紀要掲載